

東京大学大学院人文社会系研究科

次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣

帰国報告

2012年9月22日

姜智恩（人文社会系研究科アジア文化研究専攻東アジア思想文化学専門分野満期退学）

（派遣形態：PD）

研究課題名

17世紀の経学に見る朱子学批判——東アジア各国の比較研究——

派遣先での活動

（1）派遣先の基本情報

中華民国台北市

中央研究院中国文哲研究所、

コンタクトした主な研究者：

中央研究院中国文哲研究所、経学文献研究室の林慶彰・蔣秋華・楊晉龍・蔡長林教授

中国哲学研究室の林月惠教授など

（2）派遣期間

2011年5月5日～2012年5月4日、総日数：365日（現在、「中央研究院人文社会科学博士候選人培育計画」に採択され、引き続き台湾に滞在し、研究を続けている）

主な研究成果

（1）当初の計画の概要

中央研究院中国文哲研究所経学文献研究室の学術活動に参加し、研究者たちとの討論を通じ、現代の経学研究における、合理的研究方法論を構築する。同時に、17世紀日韓の経書注釈の比較研究を行い、それぞれの経学方法論の類型を見出す。また、中央研究院の中国哲学研究室及び比較哲学研究室の学術活動を参考にし、東アジアという範囲で共同課題を設け、研究活動を行う基礎を築くことを目指す。以上の課題の達成に努め、博士論文の執筆を進める。

（2）実際に達成された成果

東アジアという視点から17世紀日韓経学の意味を考察する作業を進め、2012年6月17日、「経学的観点から見る東アジアの四書注釈——17世紀朝鮮経学の新たな位置付けを中心に——」というタイトルで、博士学位請求のための予備論文を提出した。論文では、17世紀朝鮮朝の儒者たちが持つ考え方や経学文献を再考する一方で、日韓の経学の比較考察を行い、17世紀東アジアの経学展開の特徴を明らかにした。

また、次の二篇の学術論文を学術雑誌に掲載した。

①「尹鑄『讀書記』と朴世堂『思辨錄』が朱子学批判の目的で執筆されたという主張の妥当性検討」『韓國實學研究』22（ソウル：韓国実学学会、2011年12月）

②「浦渚趙翼『中庸私覽』に対する經学的考察」『韓国漢文学研究』48（ソウル：韓国漢文学会、2011年12月）

その他、中央研究院中国文哲研究所や台湾大学などの学術活動に参加し、東アジアという範囲で日韓經学の比較研究を進めている。

（3）今後の研究展望

現在台湾の学界は、東アジアの範囲で共同課題を設けることを進めている。これから、このような学術活動に積極的に参加し、日韓の經学研究という自分の課題を東アジアの共同課題の中で仕上げていきたい。經学という学問は、前近代社会で、東アジア地域共通の学術であった。従って、經学研究を東アジアの範囲で進めることにより、より正確な研究成果を得られると確信する。さらに、東アジアの共同課題を探究し続けることは、この地域が共同体でいられることが望ましいと、相互認識するきっかけとなると考えられる。